

議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和4年8月22日(月) 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 藤木百合子 國利知史 松本みのり 近藤久子議長
3. 欠席委員 福山権二
4. 事務局職員 花田讓二議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 山崎啓介議会事務局主任
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 横路政之副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
 - 1 付託事項の審査
 - 2 今後の審査について
 - 3 その他

午前9時59分 開 議

○政野太委員長 では、第4回、議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会していきたいと思っております。現在、出席委員は6名、福山委員から欠席届が出ております。なお、本日、傍聴、録音、撮影を許可しております。

1 付託事項の審査

○政野太委員長 それでは、協議事項に入ってまいりたいと思っております。まず1番、付託事項の審査、議員定数についてということで、前々回の会議において、各会派に持ち帰っていただきまして、どのような視点で審査を進めていくかということで、前回の会議に持ち寄るということでお願いをしていたのですが、まだ調整がつかない会派がございましたので、本日、ここからまず、お聞かせをいただければなと思っております。きずなさん、お願いします。

○國利知史委員 きずなで会議を持ちまして、話をしてきましたので御報告をさせていただきます。まず、議員定数は何を視点を議論していけばよいのかというところがございますけれども、これも庄原市の人口、それから面積、財政規模などが類似する市町村を参考に検討していくということは基本的なところではないかというところであります。あとは、委員会の数を3常任委員会のままでいくのであれば、それなりに必要な人数が要るのではないかというところ。削減するのであれば、委員会の数も減らさないといけなかったりとか、そういう問題も出てくるのではないかというところですので、委員会の数も頭に入れるという話になりました。過去25人の定数を一気に20人に減らしているというところもあるので、通常25人を22とか23、段階を追って減らしていくところを一気に20まで減らしているというところもありますので、その辺のところも何のために一気に減らしたかっていうところも考えながら、議論していく必要があるのではないかというところですので。次に、市民への意見聴

取の方法はどうやって行えばよいかというところですが、公聴会だけだと偏った意見しか集まらないのではないかという意見が出まして、できれば公聴会とアンケートを併用するのがいいのではないかなど、意見としてまとまりました。きずなどとしては以上です。

○政野太委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 共産党も話し合いをしていなかったのですが、この間、2人で話をしまして、意見を聞いたところ、財政規模を含めないといけないのではないかという意見をいただきました。あとは出ていました、まちづくり基本条例を生かせる議会にする、見合った議員の数が要るのではないかという2点を聞きました。以上です。意見聴取はなかなか難しいところなのですが、日常的な議員の活動を伝えるというか、議員の姿を見せながら、市民の意見を聞いていくというか、そういった視点も必要なのではないかということを言われていました。

○政野太委員長 必要ということで。結の堀井委員。

○堀井秀昭委員 大体きずなさんと考え方は同じなのですが、いわゆる類似団体等における現状をしっかりと把握して、それから市民の意見を酌み上げる方策という点では、アンケート調査の実施はやったほうがいだろう。その他としては、公聴会、有識者との意見交換会を含めて、特定あるいは非特定の方々との意見の交換をする場が必要だという思いです。それから、現在の定数20人で、今の庄原市議会の議会としての機能がどうなのかということ。メリット、デメリットという言葉を使うと少しおかしいのですが、20人、あるいは18人、そういった状況になったときに、議会の機能がどのように働かろうかなということも、しっかり検証しないといけない。それから、全国的に立候補者の定数割れとか無投票がふえているという状況の中で、こういった原因があるのかということも調査をしてみる必要があるのではないかという点ぐらいです。

○政野太委員長 大体基本のところは一緒じゃないかと、委員の皆さんに持ち帰っていただいた意見も、人口であるとか、面積であるとか、あるいは財政規模、こういった点については、ほぼ同じ意見ではないかと感じました。きょう、前回の会議で出た意見をもとに、事務局で資料を作成していただきました。3点お配りしておりますけれども、各市町、類似団体の比較ということで載せております。人口面積、あるいは議員定数、議員報酬、平均年齢、また女性議員の数、それから標準の財政規模、それから3つの指数、財政力指数、実質公債費比率、将来負担比率ということで、抽出をしてもらっております。どうしても近隣の自治体は外せないであろうということで、三次市、安芸高田市、府中市、新見市というところを掲載しております。大体人口もそれほど大きくかわりもない、同じような自治体ではないかと思うのですが、あとは、全国的に面積が広い、あるいは人口が同じぐらい、財政規模も同じぐらいということで、抽出を勝手にさせていただきましたけれども、秋田県あるいは新潟県、岐阜県、京都府、兵庫県、徳島県ということで、今回これだけの数を掲載させていただいております。こういう指数をもとに、今後進めていけばなと思うのですが、この中で先ほど、これから全部ではなくて、この中からまた改めて抽出をして、その中の例えば、先ほどきずなさんからありました、その議会における常任委員会の数であるとか、そういったものも比較をしていけばどうかと思います。2点目に、これが藤木委員からも提案があった、中国新聞の議員へのアンケートということで、その調査結果について添付させていただいております。3枚目は、これは中国新聞に関連するアンケートの設問も抽出したり、記述式の質問に対する意見等を掲載された1枚ものをお配りしております。事務局長。

○花田譲二議会事務局長 中国新聞のデータでございますけれど、中国新聞に御協力いただきましてデータをいただきました。先ほどのA3は、本年1月1日に新聞に掲載されました記事でございます。別にA4でとじてあるものにつきましては、デジタル版で出されている数字のものでございます。ただ、個人の意見等については、今回は掲載しておりませんので、一応ここまでの御提供ということでございます。関連する部分でいいますと、A4の部分を開いていただきまして、1枚目の裏になりますが、問10、議員報酬の額は適切ですか、問15、議員定数は適切だと思いますか、また、問22、議員の成り手不足を解消するために何が必要だと思いますかということで、議員報酬の引き上げであるとか定数削減であるという意見が出ているということが、数字的なものでございますが、基本的には参考になるのではないかとこの形でございます。以上でございます。

○政野太委員長 きょうは、これをお配りさせていただくと。これについて、また議論は別の機会を設けたいと思います。きょう、すぐに意見が出せるわけではないと思いますので、きょうは、参考資料ということで、この3点を見ていただければと思います。

2 今後の審査について

○政野太委員長 協議事項2番に移りたいと思います。今後の審査についてということになっておりますが、皆さんいかがでしょう。今後の審査、これらの資料、さらにもっと収集していかなければいけないと思うのですけれども、きょう出た意見をもとに、また、どのような視点を加えていくかということで、皆さんの御意見をいただければと思うのですけれども、いかがでしょう。比較の自治体のA4の1枚目があるのですけれど、こういう形で、もう少し精査をしていくということでいかがでしょうか。まずは、視点をもう少しふやしていくということですね。ただし、自治体については、少し減らしていくという考え方で。具体的に一つ一つ挙げていただければうれしいんですけども、いかがでしょう。先ほど國利委員からあった委員会のこととか、そういうことを、御意見をいただければと思うのですけれど。要は、どういう項目を追加していくかということについてです。國利委員。

○國利知史委員 先ほども申し上げましたが、委員会の数、1委員会に6人、7人は要ということですので、減らすということであれば、数が減っていく委員会も出てくると思うので、その辺のところ、委員会の数などをその議論の視点に入れるというところが必要ではないかなと思っております。

○政野太委員長 ほかにはないですか。松本委員。

○松本みのり委員 今回、この議員定数を考える委員会がなぜ始まったかというところで、議長からも議会の活性化を考える上で、この話を取り上げることになったという話があったと思うのですけれども、もっと、どう見える議会をつくっていくかという視点を持って、他の地域でどういった活性化を図る取り組みをされているかっていうところも、一緒に見ていけたらなと思っております。そこから人数を考えるのは難しいかもしれないのですけれども、まず人数がどうなのかという話ではなくて、どう活性化していくのかという視点を持って考えられたらなと思います。その上で、20人はやはり必要だよ、落ち着いたかもしれないし、もう少し活性化させて、効率をよくして、人数を減らしてもいいんだよ、というところに落ち着いたかもしれないしというところで、お願いしたいと思います。

○政野太委員長 要は他議会での取り組みという意味ではないかと思うのですけれども、それらは僕が考えているのは、今から比較をする自治体という視点があると思うのですが、ある程度、類似団体と

いう意見が多い中で、例えば議員定数が各自治体によって違います。委員会の数も、恐らく委員会の構成も大分違いもあるのではないかと思います。そういった中で、議会がどのような取り組みをされているかというのは、その後で、恐らく議題になっていくのではないかなと思っているのですけれども、そういう考え方でよろしいですか。最初から見える化というところを視点にしていくと、抽出するのが難しいと思いますので。そういった議会がどういう取り組みをされているかという視点で進めていければと思います。よろしいですか。

○松本みのり委員 類似団体の中での取り組みだけだと、数も限られると思うので、国内見渡して、すぐこれはいい取り組みをされているというところも見ていきながら、よろしいかなと思います。

○政野太委員長 ですから、今は、もう類似団体とかというわけではなく、議会の取り組みとして注目すべき取り組みをされている議会を参考にするというところでよろしいですか。

○松本みのり委員 はい。

○政野太委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 今の御意見の中身は、今度やる市民と語る会みたいな、そういった議会活動がどうなのかということをもっと見える化という意味なのでしょうか。よその議会の取り組みを参考にとという意味でしょうか。

○政野太委員長 松本委員。

○松本みのり委員 議員定数をなぜ考えるかという話が出てくるときに、議員の活動が見えない、もう多過ぎるのではないかという意見が出やすいというところがあるかと思うのですけれども、それをどう、もっと市民から見えるようにしていくのか、市民の参加をどうふやしていくのかというその取り組みが両方必要ではないかなと。もう見えないし、もう多過ぎるように見えるから減らしてしまおうのほうに進むのではなくて、そういった議会が多いかと思うのですけれども、そうではなくて、もっと議員が何をしているのか、議会が何をしているのかを知っていただくところからスタートしてみて、その中でやはり少し多いよねになるのか、このぐらいあって、もっと活性化してほしいよねになるのか。違ってくるのかなと思います。

○政野太委員長 例えば、そういう自治体の、具体的なその抽出方法は何か案がありますか、多分さまざまな議会の中ではいろいろな活動されていると思うのです。うちでいえば、昨年からやっている市民と語る会であるとか、これまでも議会報告会という形でやってきたりとか、あるいは学校に訪問してとか、いろいろな取り組みをされていると思うのですけれども、それらの具体的に、ほかの自治体からいい取り組みを抽出するという具体的な方法が何かあれば、ぜひ検討したいと思うのですけれども、ただ、最初のこのベースに乗せていくのか、その次の段階での議論していくのかというのは、まだ決めかねますけれども、何か具体的な抽出方法はありますか。松本委員。

○松本みのり委員 議会活性化をテーマにした本ですとか、雑誌ですとか、そういったところにも、ある程度、かわった取り組みをされているところが抽出されていると思うので、そういったところを参考にさせていただくのがいいかなと。

○政野太委員長 いかがでしょうか。今、松本委員からそういう比較も必要ではないかという御意見ですけれども。横路副議長。

○横路政之副議長 この一覧ですよ。人口や面積だとか書いてある中で、先ほど言われた委員会の構成であるとか、松本委員が言われるような視点とかということで、つけ加えて検討したほうが。ざっく

りと全国でいいところを抽出というのは、余り意味がないと思います。

○政野太委員長 松本委員。

○松本みのり委員 横路副議長のおっしゃるような形がよろしいかと思えます。ありがとうございます。

○政野太委員長 ですから、今の横路副議長の御意見でいうと、ある程度はこういった数字、類似団体を抽出する中で、その取り組みについて比較をしていこうということでもよろしいですか。近藤議長。

○近藤久子議長 せっかくここに抽出していただいております。この中に、下から3番目に、京都府の南丹市があるのですが、先日視察に来られたのですよ。議員定数とかいろいろやられていました。非常に参考になるところ。もうこれ以上幅を広げるのは、一応これに決めて、この数字的なものをもっと深く検討するほうが、まず、せっかくの資料ですから。例えば、財政力指数の0.26は何を指しているのだろうか。実質公債費比率がこう、将来負担比率はこう。これを皆さんの全員で、これはこうなのですと、すばつと言えるものなのかどうなのか。標準財政規模も、これは何を意味しているのだろうかとか、そういうところも、しっかり見ることも大事なのではないですか。庄原市と三次市の人口もそうそうかわりませんけれども、議員報酬は何でこんなに差があるのかとか、そういうところも本音を出し合いながらの話し合いを、まず、この規模から始めていくのがいいのではないかなと思います。

○政野太委員長 きょうの時点で、この中からまたさらに絞り込むということは難しいかと思えますけれども、これ以外にももしあれば、ここは参考にすべきではないかというのがあれば、その御意見を足していきたいと思いますが、いかがでしょうか。局長。

○花田譲二議会事務局長 A4の横の資料でございます。少し説明をさせていただきます。まず、上から島根県の雲南市までは近隣の中国圏の類似というものを、ある程度ピックアップをさせていただきました。北秋田市から以下は、委員長と相談して、少しいろいろな形で類似しているものをピックアップさせていただいたところです。特徴的なのは、特に北秋田市につきましては、人口もよく似ている、面積についても非常に似ていると。議員定数は18ということでございますが、これは減らされたという話も聞きました。財政規模なども含めて非常に似通っているなという感じでございます。それと1つ飛んで、魚沼市も、面積的には、これまで調べさせていただきましたが、3万人台でいうと、庄原市が1位、2位が北秋田市、3位が魚沼市という形になっているようでございますので、非常に面積的には似通っているなど。それと岐阜県下呂市についても、一応財政規模であったり、面積であったり、人口的なものについても、似通っているなど。先ほど京都南丹市がございましたが、南丹市は本市より面積は半分なのですが、実は議員定数は、ことしに入るまでは22人だったのです。今年度の2月に改定を行いまして、定数が20になったとお伺いしております。ですから、面積的なものを含めた形と財政的な形でも、非常に似通っているのではないかと。徳島県の三好市につきましても、議員定数及び財政規模についても、比較的似通っているものではないかということで、ピックアップをさせていただいております。これを例えば、総合的に判断してというものになるのか、もう、それぞれの特徴的なものをピックアップする中での分析をしていくのか、ということになってきょうかと。そのほかでも、似通っていることは若干あるのですが、大体複合的に、先ほど言いました、いろいろな条件が似通っているというのは、こういう形でピックアップをさせていただいておりますので、そのほかにも、先ほど松本委員さんも言われたので、そのほかにもいろいろな、こういう取り組みをしているとかということがもしあれば、調べることはやぶさかではないと思いますが、今後この部分のと

ころをどういう形で、少し類似という形で絞っていくのかということになる。先ほど國利委員が言われましたような委員会構成であるとか、委員会の数であるとか、逆にその人数にされた背景であるとかというのは、当然今度は直接のやりとりでの問い合わせになっていこうかと思えます。その辺のところを、少し考え方、トータルで似通ったところを絞ってやるのがいいのか、いや、ここは20人のところは、ここを抜くという形の、今、やり方はそういうやり方があるかと思えますが、先ほど御意見が出ておりましたが、特に日本全国の方でいうと、これぐらいに絞った形で、ある程度類似ができるのではないかと、事務局としては考えているところでございます。以上です。

○政野太委員長 1点、これもつけ加えていただければなど思っているのですが、係長には以前お話をさせてもらいましたが、この定数、報酬が一体いつ決められたものなのか。あるいは三次は例えば24になっていますが、次回の選挙から22になるということが決められていると。要は、何年ぐらいで、この数字が報酬にしても定数にしても、新しい数字なのか、あるいは次回、次期の選挙にはもう既に改定されることが決定しているのかということがわかればよいと思うのですが、いかがでしょうか。局長。

○花田譲二議会事務局長 この部分につきましては、現在の数字については、直近の数字でございます。定数についても、こういう状況でございますが、統計がありました部分については過去に改定された部分、今年度改定された部分の情報がありましたので、そこは調べられるものかと思えます。一部、ここには載っていませんけれど、来年の4月に改定をしますということが決まっているところもありますし、令和3年度に改定したところの情報が出ておりますので、そういったものは調べられると思えます。

○政野太委員長 例えば三次の場合は、定数は減らしたけれども、報酬は報酬審にはかけなかったということだと思えます。だから、報酬審にかけたかかけられなかったのか、あるいはかけたけれどもこういう理由で増額になったのか、あるいは減額というのは余り聞いていないのですが、現状維持になったのかということも参考資料として、多いかもかもしれませんが、お調べいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。局長。

○花田譲二議会事務局長 可能な限り。もう少し絞っていただくと、事務局としては大変ありがたいです。ある程度ここが似通っているのです、この分をとということがもしあれば、幸いなのですけれど、これぐらいなら何とか調べることは可能かと思えます。ただ、どうしても相手方とのやりとりに、今後なってしまうので、少しお時間をいただきたいと思えます。

○政野太委員長 きょうは、これはたたき台ということで提出していただいたのですけれど、これをもとにまた皆さんの意見を、次回会議で、こういった自治体を追加してはどうか、例えば、この中でも類似しているのは、もう外してもいいのではないかとかいうことを、今、決めてもいいのですけれど、もう少し見ていただいたほうがいいのかと思えますので、そのあたりを次回、お聞かせいただくということでもよろしいですか。今、決めてもいいのですけれど、どうしましょう。でも、次の比較団体を出していただくにしても少し時間があつたほうがいいのかと思えますので、それとあわせて、お願いさせてもらってよろしいでしょうか。近藤議長。

○近藤久子議長 三次市が今度22になるのですよね。新見市がアンケートもとられています、市民に対して。今、16になっています。どういうアンケートをとられて、どういう経緯で、何人が16人になったのかということも、すぐ近くですから、資料も取り寄せられることもできると思うのですけれど

ども。何年に16人になったのか。

○政野太委員長　　そういう情報をつかむことは可能ですか。事務局で。例えばアンケート。全てでなくてもいいと思うのですけれども。今、議長からは新見という具体的な自治体が出たので、新見市についてでもいいですし、三次もたしかアンケートをとられていたと思うので。横山係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長　　今、具体的に出していただいたのですけれども、ある程度絞っていただいて、例えば3つ4つとかいう形でおっしゃってくだされば、個別にこちらから照会をかけまして、詳しい情報を次回までにお示しすることは可能かと考えます。

○政野太委員長　　それも含めて、次回までに皆さんも各自お調べをいただく中で、この自治体のこういったアンケート調査をされているという情報は、多分、調べれば出てくるのではないかと思いますので、それについて提案をいただいて、次回そろえるのではなくて、次回その自治体について提案をいただいて、次の次の会に資料を集めていくという流れでよろしいですか。多分、今の話で、具体的に新見、三次あたりはすぐ取りかかれるのではないかと思いますのですけれども。近藤議長。

○近藤久子議長　　南丹市はできますか。

○政野太委員長　　きょう、急にこの自治体を皆さんに提示したので、この自治体がどういう取り組みで議会の定数を決められたかというのは、これから皆さん各個人でお調べいただきたいなと思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　このA4の表は、要は、さまざまな要件に基づいての類似的な団体というものだから、これからだけで引っ張り出すのはしんどいと思う。この2年内ぐらいに、市民アンケートの実施を含めた議員定数あるいは報酬の改変の検討を行った市を対象に引っ張り出してみていただければ、議長が言われるように、どういったアンケートを行ったとか、そういう情報を得られやすいのではないかと思いますのだけれど、どんなですか。

○政野太委員長　　先ほど僕がお願いしたことも、要するにそういうことですね。議員定数がいつ決められたのかというのがわかれば、もう少し抽出できるかなと思ったのですけれど。議員報酬とか、恐らく勝手な想像ですけれど、近年、そういう改変を考えると市民の意見を取り込んでいない議会はないと思うので、例えば定数がいつ決められた、三次が、きょねんやられたとかいう情報がわかれば、その中から抽出していくことが可能ではないかと思ったのですけれど、そういう流れでいいですか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　そういった条件を抽出しながら、類似市町を抽出していかないと、ばーっと中から、次回までに選んでこいと委員長から言われても、選ぶほうとしても選びにくい。

○政野太委員長　　横山係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長　　報酬審とそれから定数、それぞれ分けて、今から御議論いただくのですけれども、まず定数について、今、堀井委員がおっしゃったような、直近は2年以内で、この自治体の中で実際議論をされて、変動があるもしくは据え置きになると、そういった結論とされたところを、まず事務局で調べさせていただきます。そこにつきまして、経緯であるとかどういった取り組みの結果そうなられたかというのを、できる限り次回までにお示しできる形でしょうと思いますので、よろしいでしょうか。

○政野太委員長　　それでは、今回出させてもらっている自治体、あるいはこれ以外にもあれば、また御意見をいただければと思うのですが、この中について、近年、定数について議論された、改変の動き

をされた自治体についての情報を、改めてデータとして御準備させていただくということによろしいですか。事務局長。

○花田譲二議会事務局長　　ちなみに、直近の近くの市町でいいますと、鳥取県の境港市が、ことし2月に定数を16から15に改定をされておられる。島根県大田市もことしの4月、20から18にかわっております。先ほどここに出ております南丹市につきましても、定数22をことしの2月に20にしているところまでは、御紹介ができるかと思えます。そのほかについて、この部分について、それ以外のところを、全国で直近でということであれば、幾らか絞らせていただいて、調べさせていただきたいと思えます。

○政野太委員長　　ここにはない境港とか、そういった情報もいただいたのですけれども、それらの情報も入れるということで、いいですか。そうすると多分、またさらに広がっていくのではないかと思うのですよ。

○堀井秀昭委員　　だから、どういった対象の市町を選ぶかという、まず人口の類似を何市、面積の類似を何市と条件をつけながら、2市とか3市とかに限定してやっていったほうがいいのではないかと。この財政力指数とか公債費比率は執行者の問題なので。議員定数や報酬のところでは、余り参考にはならないので。

○政野太委員長　　藤木委員。

○藤木百合子委員　　ここに出ている、一応抽出されたわけではないですか、類似した人口とか面積とかで。ここに出ている市町で直近2年以内に変化があった。議員定数の変化があったところで、アンケートはどんなアンケートをとられたのかとか、ここに出ている市町でもいいのではないのでしょうか。

○政野太委員長　　堀井委員。

○堀井秀昭委員　　この中だけで1市か2市しかなかったら、それは少なすぎる。

○政野太委員長　　事務局長。

○花田譲二議会事務局長　　わかる範囲でいうと南丹市のみです。ただ、過去2年間程度遡ると、皆さんにお配りしている部分の統計のところ、我々も調査をしているので、だから過去2年遡ったらどうなのかというのまではわかりません。今年度とか、来年度にも確定しているところだけしか、今、我々も調べておりませんので、先ほど堀井委員が言われたように、ここ2年の間でいろいろな取り組みをされたというところは、1つの参考になろうかと思えますので、そういう意味で少し調べてみたいと思えます。その中で、例えば、比較的人口が似通っている。何十万という都市を調べてもしんどいと思えますので、例えば人口が似通っている3万から4万とか、そういう形のものでお示しすることはできるかと思えます。そこでもう1回絞っていただくという形になるのではないかなと。これまでも面積とか類似で一応絞ってはいるものですから、そこに先ほど、直近で議員定数を考えたところがどこがあるかというのを、再度それで絞って、もしかしたら追加になるかもしれませんし、ここの中で新たに何年になるというのはわかると思えます。そういった形で、また御提供させていただきたいと思えます。そうすれば、そこの中身の、今度は、どういうことを取り組みされたのかというのもわかってくるかと思えますので、そういうやり方をさせていただければと思います。

○政野太委員長　　2年という堀井委員からの意見がありましたけれども、それは2年にこだわるものではないのではないかなと思ったのですけれど、その辺はどうでしょう。2年なのか3年なのか4年なのかというところを決めておかないと。近藤議長。

- 近藤久子議長 2年以内。
- 政野太委員長 2年ということで皆さんよろしいですか。事務局長。
- 花田譲二議会事務局長 基本的にはここにあるA4の部分のところで、何年に改定が行われたのか調査します。いつ改定がされたのか、またそのアンケートとかとられたのかまでは、まだ調べられるかどうかわかりませんが、改定はわかりますので、今の表示している部分は、いつ改定したのか最低限調べさせていただきます。それにプラス、少し類似しているもので2年以内でという形で調べさせていただきます。
- 政野太委員長 今の内容でよろしいでしょうか、皆さん。松本委員から言われた、いわゆる中身、どういった議会の取り組みをされているかというのは、次の段階になるのではないかと思いますので、御理解ください。続きましては、もう1つ、このアンケートなのですが、これについては少しどのように取り扱っていくのかということ、皆さんと協議をしておきたいと思うのですけれども、先ほど事務局長からも何点かこういった点が参考になるのではないかとということがありましたけれども、一度、時間をかけて見ておいていただくということで、きょうはよろしいですか。堀井委員。
- 堀井秀昭委員 三次とか安芸高田などもアンケートをやっているだろう。これは個人にアンケートしたのか、その世帯単位なのか。それとも世帯の中から抽出して、半分とか3分の1とかという世帯を抽出してしたのか。そういった状況もあわせて調べていただけたらと思うのですけれども。アンケート自体は、これはやるということは、もう決めたのか。
- 政野太委員長 決めたというか、みんなの意見はそうです。前回と今回で、市民の意見聴取はどのような形でやりますかということの中に、アンケートということが。どちらにしろ、市民意見聴取という形も同時進行しておりますので、方法について。そのアンケートの有無について、同時に見ていただきたいと思いますが、よろしいですか。事務局長。
- 花田譲二議会事務局長 行政とかこういったものがやるアンケートの場合は、ほぼ無作為抽出の形になろうかと思います。世帯に送って、世帯の代表ですするというのは、統計上あまりおもしろくないということがありますので、多分、何歳以上で、無作為、人口に対して何%という形で送らせていただいて、3割返ってくれば統計上は有効ですよという判断でもらっていますので、大方の無作為抽出だと思います。だから、そういった意味合いでも、どういう形でのアンケートをされているかというのは、調べればすぐにわかってくると思いますし、庄原市もこれまでいろいろな市民アンケートは全て、無作為抽出方法でということ。ですから、選挙人でいえば、18歳から何十歳までということで、その人口比率で何割という形にさせていただいて、何通という形で、総勢3,000通とかいう形で決定させていただいておりますので、そういう形になるのではないかと思います。他のところもどういう形かというのは調べてみます。
- 政野太委員長 可能ならば、こういった内容をされたのかも入手できれば、アンケートの内容を。また、参考資料にさせていただければと思います。中国新聞のアンケートについては、議員に対するアンケートで、前回の会議でも、意見があったと思うのですけれども、市民へのアンケートだけではなく、議員に対してもアンケートをとってはどうかという意見がありましたけれども、その部分のための参考資料だとお考えください。議員20名に対してですね。その辺はどうでしょう、皆さん。具体的には、きょう決めることではないのですけれども、それをもとに、今回この資料を用意してもらっておりますので、議員自身がどのように考えているのかということのも、重要な視点ではないかと思うのです。

議員に向けてはもう少し先。資料として、参考として、いつか議論するときの項目の参考にしていただければと。これは不思議なのですよね。議員報酬は適切だと思うが圧倒的に多い。にもかかわらず、議員をふやすためには報酬を上げたほうが良いという、非常につかみにくい内容の部分もありますけれど、そこらも総合的に酌み取っていただいて、判断をしていただければと。今後の審査について、もうしばらくは、資料等を集めるという作業が進むと思いますけれども、きょう、いただいた御意見を参考に、事務局でまた資料を準備していただくということでよろしいですか。事務局長。

○花田譲二議会事務局長　これは事務局からのお願いでもございますが、こういう形で絞らせていただいておりますので、それぞれ議員活動の中で、このまちはどうなのだろうというのは、少し調べていただければ、意見の交換がやりやすくなるのではと。我々事務局は、当然、資料を持って出ますけれど、例えば御興味があれば、このまちはよく似ているので調べてみようかということではできると思いますので、そうすれば、このまちはこんな形だったよというのが、例えば我々が気づかないところでも出てくる可能性がありますので、そういった意味合いでは、少しこれを参考にしていただいて、議員の皆様も、調査というよりは、調べてみられたり、興味を持っていただければ、議論のあれになると思いますので、よろしくをお願いします。

○政野太委員長　少しずつですが、いろいろな資料が集まってきておりますので、さらにこれを次なる審査に向けて、どのように活用していくかというのを、今、精査をしている段階だと思っております。この場で、もちろん出ない意見についても、先ほど事務局長言われたように、会議外でも、こういった自治体がどうかということで、私でもいいですし、事務局でもいいですので、お話をいただければ、その資料の準備等も進めていければと思います。ただ、膨大になる可能性もありますので、数の制限はできませんけれど、その辺は皆さんで御判断をいただければと思いますので、御協力をお願いします。ほかにないですか。審査については、きょうの時点ではこの程度でよろしいでしょうか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　あさって、語る会の班長会議を集まってもらうようにしています。そのときに、先般お願いをしましたが、こちらが準備するテーマというわけではないけれども、この議会の定数及び報酬の問題についての検討を始めているということ、市民の皆さんへ情報として提供してほしいという言い方でお願いをしているのだけれど、そのときに、何か資料というか、言葉でそういうだけで終わるのか。どうなのだろう。私が思うのはこの4枚のものを、近隣あるいは類似自治体の現状を市民の皆さんにも情報として示しながら、庄原市として適正な定数というか報酬とかは、どのぐらいのものだろうかということを検討しているのだという資料の提供はしてもいいのではないかなという気が。最初はそのつもりでいたのだけれど、どうでしょうか。そのことを班長会議で諮るとすれば、何もなしでやってくれというのか、何か準備しますというのか。

○政野太委員長　市民と語る会において、今回の特別委員会からの報告という形で時間をいただいております。特にその委員会のメンバーが説明をしなければならぬという決まりはございませんので、その班でそれぞれ決めていただければと思うのですが、今、堀井委員からあったのは、それについて、資料はどのような形にするのかということなのですが、今、堀井委員からは、こういった市町の、せつかくあるデータ、こういったものを出してはいかがかという話でありましたが、いかがでしょうか。國利委員。

○國利知史委員　堀井委員からの資料の提供の件でお話があったのですが、市民と語る会のときに口頭

で説明するだけだと、何でこういう議論を、今、してるのかとか、そういうことが市民に伝わりにくいし、庄原の議員で、ほかと比べてどうだろうみたいなところも、イメージを、その日に来られた方だとわからないと思うので、私はもし可能なら、今、堀井委員が言われるように、資料は簡単なものでいいと思うので、出したほうが、市民の方にはわかりやすいのかなとは思いますが。

○政野太委員長　ほかには御意見ありますか。いけないという意見があれば聞かせていただければと思いますが、ないと思うので。私が考えていたのは、まずは、議長からの諮問によって、この委員会が立ち上がった。その議長の思いを、多分、新聞等でも発表されておりますけれども、そういったことを、まず説明していただいて、現状として、この中のこういったデータ、これは僕は近隣の市町だけでいいのではないかなと思っていますが、いかがでしょう。その中には、実質公債費比率とか、こういったものはもう要らないのではないかなと思います。人口、面積は参考資料として、議員定数、報酬、平均年齢、女性議員、これぐらいでどうでしょう。

○堀井秀昭委員　県内市町の状況ぐらい、表はあればいい。例えば報酬だって、庄原市は、ほとんど下にいるという位置づけが確認できれば。

○政野太委員長　事務局長。

○花田譲二議会事務局長　そちらがよろしいかと思います。類似を出すと、例えば、うちより面積が狭いの、うちより多いとか、逆にいえば、人口はすごい多いのに10何人とかという話に、その数字だけがひとり歩きするという可能性があります。ですから、できれば、県内ではこういう位置づけにありますよということ、それと、先ほどありました、議長からの諮問を受けているということだと思いますと、どういう意味合いで、今、これをしようとしているのか。合併して何年、そして議員定数を変えて10年という部分のところなどを説明するという形でもよろしいかと思います。あわせて、当然2時間程度ということで、各地域での議題とかテーマとか、そういった形でやっていきます。きよねんの御意見に対しての、少し回答ではないけれど、どういう形で取り組んでいますよというのが紹介できればするという時間を設けるということになるので、そんなにこの時間に、多数の時間を割くというのは難しいのではないかと思います。ですから、そういった意味合いでは、経過と現状、どういう形で、今後調査していきますよ、それに対して、市民の皆さんの御意見を聞いていきますよということを出す資料としては、県内で、庄原における位置づけという説明ができればよろしいのではないかと。そうはいいまして、11月からでございますので、まだ何回かこの会をしていかなければならぬので、資料の作成なども、その時点で幾らか御検討いただける時間はあるかと思います。

○政野太委員長　今、堀井委員から広島県内の状況でどうかということでありましたが、その方向でよろしいですか。中身については、どうでしょう。先ほど言った、ここでいうところの女性議員数までぐらい程度でいいのではないかなと思うのですが、よろしいですか。例えば庄原市、合併の直前から議員定数が幾らになってきたかということのもあってもいいかなと思うのですが。

○花田譲二議会事務局長　内容につきましてはこちらで作成させていただき、委員長、副委員長とも相談させていただきながら、しかるべき皆さんに資料を見もらうように、開催までに準備をさせていただきます。

3 その他

○政野太委員長　　その他、何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○政野太委員長　　それでは、次回の会議について、これは事務局から何かありますか。

○花田譲二議会事務局長　　少し資料をつくらせていただきますので、改めて御案内をさせていくということで、定例会の期間中になろうかと思うのですが、そうはいいましても、議案の関係やいろいろあったり、それぞれ決算、補正予算等の審議をいただく形になりますので、その辺の合間をぬわないといけないと思いますので、改めて連絡をさせてください。

○政野太委員長　　それでは、次回会議については、また改めて御連絡をさせていただくということで、本日の第4回、議員定数及び議員報酬調査特別委員会を散会したいと思います。

午前10時54分　　散　　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長